

戦没者弔う「土佐之塔」50年

や 戦線 沖繩 戦 南方 戦

沖繩戦や南方戦線で戦没した高知県出身者を祭る沖繩県八重瀬町の「土佐之塔」が建立から50年を迎えた。高知県民の浄財で建った塔には、約1万8500人が祭られており、多くの遺族らが毎年訪れる。今年も県遺族会(大石綴子会長)主催の慰霊祭が14日開かれ、本県の遺族や同町住民ら約90人が戦没者の冥福を祈った。

(村上和陽)

今年も90人が慰霊祭 沖繩

土佐之塔は沖繩本島の南端、眼下に太平洋が広がる具志頭城跡にある。沖繩戦の激戦地の一つで、戦後、有志の手で「高知県戦没者慰霊塔」が建てられていた。しか

し、手狭で維持管理も不十分だったため、新たな慰霊塔を建てようと、建

立の期成同盟会や高知県などが中心になって浄財を募り、新たに用地を購入。名前を「土佐之塔」に決めた。



建立50年を迎えた「土佐之塔」で開かれた慰霊祭(14日午前、沖繩県八重瀬町＝高知県遺族会提供)



1966年8月に完成し披露された土佐之塔の塔石(高知県庁)

塔石は高知県庁構内で制作。仁淀川から運んだ青石を使い、吉田茂元首相が揮毫した。1966年9月、当時は本土復帰前で、米軍施政権下だった沖繩に塔石を「輸出」。同年11月24日に除幕式と慰霊祭が開かれた。以降、毎年この時期に本県の遺族らが慰霊祭を開き、塔の周辺を日頃清

父親のことを知ってほしい、と子どもや孫を慰霊祭に初めて誘った竹内さんは「土佐之塔に来ると、フィリピンに近づいた気持ちになる。おやじのことを思い、涙がうるつとなつた。孫の有衣さん(20)は「ひいおじいちゃん(20)は「ひいおじいちゃん」のことは詳しく知らなかったし、塔に来るまでは実感もなかった。より知りたいと思えたし、今後も慰霊祭に参加したい」と話していた。